

養命の里 会報

No.2

養命の里「NPO法人2年目」

2002年2月にNPO法人化した「信州養命の里プロジェクト」は、法人化2年目を迎えました。

養命の里は、信州伊那谷の段丘に点在する遊休地、荒地地の復興と再利用を進めながら、急速に進み、多様化した少子高齢社会の中で、次の世代を生きる人々のための快適な田舎暮らしを提供しています。

養命の里は、信州伊那谷の豊かな自然の中で、ゆったりとくつろいだり保養する、機会と場所を提供しながら、都市農村交流などの地域間交流と、地域活性化を目指しています。

養命の里は、それらの様々な体験を通して、経歴も年代も超えて、新世紀を生きる人々の「生きがい」「健康」「仲間」づくりを進めています。

会員になりませんか

イベントの案内をいたします
どんなイベントがあるか、活動報告をご覧下さい。

販売物を会員割引します

養命の里が販売する「リンゴ」などを、割引した会員価格でお求めになれます。

会費は

個人会員は、入会金6,000円、年会費6,000円です。
賛助会員は、入会金30,000円、年会費6,000円です。

活動報告

夏のイベント(2002年8月3日)

養命酒製造(株)駒ヶ根工場見学

まずはじめに養命酒シアターで、養命酒製造(株)の説明映画を見ました。
自然然あふれるきれいな映像に、しばしうっとり。

養命酒は、約400年前の慶長7年(1602年)、信州伊那の谷(大草現・長野県上伊那郡中川村大草)の塩沢家当主、塩沢宗閑翁が創製したのがはじまり。
伝説によると、慶長年間のある大雪の



晩、宗閑翁は雪の中で倒れている旅の老人を助けました。それから3年間、老人は塩沢家の

の食客となっていました。海山の厚き御恩に報いたく思えど、さすらいの身の悲しさ。されど自分はいわれある者にて薬酒の製法を心得ている」と、薬酒の秘製法を伝授し、「この地を去ったといつ。

これより塩沢宗閑翁は世の人々の健康長寿に尽くしたいとの念願から、赤石山麓(南アルプス)の奥深く分け入り、薬草を採取して薬酒を造り始め、これを養命酒と名付けました。

座光寺工場長の案内で、養命酒駒ヶ根

工場内を散策しました。

写真は

塩沢宗閑

翁銅像の

前で説明

を聞く参加者。

構内は、

縄文、弥

生、平安

時代の遺

跡が豊富、

当時の住

居が復元

されています。

ます。



中川村どんちゃん祭りに参加

養命酒をあとに、第11回を数えるどんちゃん祭りの会場へ

最初は、ジャグラー、コミックバンド、ピ

ンゴゲームなどの

催し、いよいよ陣馬

太鼓。勇壮な太鼓

の響きが、鼓膜を

ふるわせる。

飲んで、食べて、

大いに語って。

夜のとばりが降

りると、お神輿の

競演。

最後は、目の前

から打ち上げられ

る花火でしめくく

り。

夏の夜空に咲く

花を、首が痛くなるまで見あげていました。



秋のイベント(2002年9月)

9月15日

西原ぶどう園でソバ打ち体験

「陣馬ソバ」

横前仁氏の指

導でソバ打ち

を体験しまし

た。

自分で打った

ソバの味は格

別!

ぶどう狩り

と食べ放題

宮崎さんの

ぶどう園で、

ぶどう、健康

パン、ソバがき

汁、ビール、

ワイン、ジユ

スを飲んで

食べ放題。

おなががい

っぱいにな

りました。

夜、銀河ド

ーム

での星空鑑賞

は、曇

天のため中止

。

9月16日

陣馬形山(1455)の登山

伊那谷の眺望が最高の陣馬形山へ。

途中、樹齢

600年の大

木「丸尾のブ

ナ」を見学。



山頂から、伊那谷のパノラマを見る予定でしたが、雨天のため見えず、残念。



りんごの樹オーナー収穫祭
(2002年11月16日)



西原りんご園でりんごの収穫祭を行いました。たくさん実ったなー。天気もよいし、さあはじめるぞ。おおいの取ったー。



こんな食べられるかしら。近所に分けばいいぞ。



お昼をいただきますながら、蜂博士(富永朝和氏)の蜂談議を聞く。蜂の習性から、蜂の巣づくりの苦労話まで。へーそんなことぞー。

早春参禅会(2003年3月29日)

長野県上伊那郡中川村常泉寺(じょうせんじ)は、530年の歴史を持つ曹洞宗の禅寺。大イチョウがひとときわ目を引きまます。まずは、近くの淨蓮寺(じょうれんじ、曹洞宗)平島寿影(じゅうしやう)住職の法話を聞きます。題は「見直したい家族の絆(きずな)と心」



いま学校は「学級崩壊」といわれ荒れている。実は、原因は生徒たちより私たち大人にある。人間として生きる基本的なルールを教えていない。基本的なルールとは、仏教では「五戒」。生きものを殺さない、自らに誓います。与えられないものをむさぼりとりなないと自らに誓います。欲するままに淫らな行いはしないと自らに誓います。ウソをつかないと自らに誓います。無明なる酒を飲まない、自らに誓います。ひとつひとつは人間が平和に共生するため必要な条件。自らが大事。



本堂で坐禅に入る。すべての煩惱を滅却し、ひたすら瞑想。30分の坐禅が終わって、おにぎりや豚汁で昼食。話が弾みました。

益母草(やくもそう)栽培



益母草(やくもそう)は、漢方薬の一種です。益母草という名は、婦人の病気に優れた効力があるからだときれ、欧米で Motherwort(母の草)と呼ばれています。

浄血、新陳代謝、補精薬として、婦人の産前産後の血行不良、血の道といわれる諸症に用いられます。腎臓炎によるむくみにも効果があります。



養命の里は、中川村の遊休農地で薬草栽培の手がかりを得ることを目的として、養命酒製造(株)の委託による益母草を試験栽培しました。

4月、堆肥をまいて畑を起こし、丁寧に苗を植え付けました。だんだん伸びてきて、花が咲き、ミツバチなどの虫が花に群がります。

益母草畑から望む南アルプス、薬草園にふさわしい風景です。

そしていよいよ収穫。雑草が混入しないように慎重に刈り取ります。



屋根の下で乾燥し、カラカラに乾いたら、切断機で短く切断します。

養命酒の品質検査で見事合格しました。来年のため、益母草の種をまき、芽吹かせました。



りんごの樹オーナー募集

養命の里では、多くの皆さんに収穫を楽しんでいただける、楽しんでいただける、りんごの樹オーナーを募集しています。収穫の秋に、自分の樹からりんごを取る楽しみを存分に味わってみてください。真つ赤な実のなる季節まで、園主がオーナーの方の樹を、責任を持って管理いたします(詳しくはホームページで)。

編集後記

2003年5月には2回目の事業報告、決算総会を開催します。NPO法人3年目に向けて、新たな取り組みが始まります。皆様のおかげです。今後も変わらないご支援をお願いいたします。ご要望をお寄せください。

長野県上伊那郡中川村片桐2316の2
信州養命の里 プロジェクト事務局
Tel 0265-88-2452 Fax 0265-88-2452
e-mail sys100@ceres.ocn.ne.jp
URL http://www4.ocn.ne.jp/~youmei/
「養命」は、養命酒製造株式会社(株)の登録商標で、「養命の里」の使用については、同社の承諾を受けております。